

あなたがたはわたしを捜します

ヨハネの福音書 7章 25-36 節

はじめに

イエス様は、ユダヤ人の祭りである「仮庵の祭り」のため、「エルサレム」に来ていました。「仮庵の祭り」は、秋の収穫感謝祭でもあり、各地からユダヤ人たちがエルサレムに集まって来ていました。「仮庵の祭り」は、「キャンピング・フェスティバル」とも訳され、人々は一週間、仮小屋で過ごします。木の枝や葉っぱなどで仮小屋を作り、人々は一週間、野外生活をするのです。これは、昔イスラエルの民が約束の地に至るまでの四十年間、荒野で生活したことを記念するためです。そのことを忘れないために、ユダヤ人は毎年、「仮庵の祭り」を祝うのです。

この祭りの半ば頃から、イエス様はエルサレムの「神殿」で説教を始められました。今日の聖書箇所では、イエス様は「公然と」「大きな声」で語っていたとあります。しかしイエス様はこの時、「ユダヤ人の宗教指導者たち」から、命を狙われていたのです。「ユダヤ人の宗教指導者たち」とは、今日の聖書箇所では、「議員たち」「祭司長たち」「パリサイ人たち」「ユダヤ人たち」と言われる人たちです。イエス様は、命を狙われていたにも拘らず、「公然」と「大きな声」で説教をしていたのです。なぜでしょうか。なぜイエス様は、そんなことができたのでしょうか。それは 30 節にあるように、「**イエスの時がまだ来ていなかったから**」です。イエス様は、ご自分の「時」をよく知っていました。イエス様の「時」とは、イエス様が十字架で殺される時です。つまりご自分が、死ぬ時です。イエス様は、ご自分の時をよく知っていて、ご自分の時はまだ来ていないと知っていたので、ユダヤ人の宗教指導者たちを恐れることなく、「公然」と「大きな声」で説教することができたのです。

1. イエスはどこから来たのか？

25 節に、「**エルサレムのある人たち**」というのが出てきます。「仮庵の祭り」には、各地からユダヤ人たちが集まって来ました。しかしこの「エルサレムのある人たち」というのは、もともと「エルサレムに住んでいた人たち」のことです。彼らは、「自分たちはユダヤ人の中心地に住んでいる」「神殿のあるユダヤ人の宗教的中心地に住んでいる」というプライドがありました。ですから彼らは、「キリスト」についての知識も持っていました。

この時のエルサレムでの話題の中心は、「イエスという男は、キリストなのかどうか」ということでした。イエスという男は、病人を癒す奇跡を行う、素晴らしい説教もする、この男はいったい何者なのだ、もしかしたらキリストかもしれない、人々はイエス様について様々な評価をしたのです。

「エルサレムのある人たち」は、イエス様はキリストではないと考えていました。なぜなら彼らの知識によれば、「**キリストが来られるときには、どこから来るのかだれも知らないはず**」だからです。彼らの知識によれば、キリストは人々の間に突如現れる、神秘的な存在なのです。どこから来たのかが分かるような人は、キリストではないのです。彼らは、イエス様がどこから来たのかをよく知っていました。イエス様がガリラヤ地方のナザレという町から来たということをよく知っていました。彼らは、イエスという男はガリラヤのナザレから来た田舎者だと見ていました。そんな男がキリストのはずはないと考えたのです。

イエス様は、そのような彼らに対してこう言われます。「**あなたがたはわたしを知っており、わたしがどこから来たかも知っています。しかし、わたしは自分で来たものではありません。わたしを遣わされた方は真実です。その方を、あなたがたは知りません。わたしはその方を知っています。なぜなら、わたしはその方から出たのであり、その方がわたしを遣わされたからです**」。彼らは確かに、イエス様のことを知っていて、イエス様がどこから来たのかも知っていました。しかし彼らは、イエス様が本当の意味でどこから来たのかを知らないといエス様は言われるのです。

イエス様は今日の聖書箇所直前の 24 節で、こう言われました。「**うわべて人をさばかないで、正しいさばきを行いなさい**」。つまり「表面的に判断しないで、正しく判断しなさい」ということです。イエス様がガリラヤのナザレから来たというのは、確かな事実です。しかしそれは、あくまでも表面的な事実でしかありません。なぜならイエス様は、ガリラヤのナザレから来たと同時に、「神様のもとから来た」「神様から遣わされて来た」方だからです。

イエス様は、表面的に見れば、ガリラヤのナザレから来た田舎者です。しかし信仰の目で見れば、「神様のもとから遣わされた者」なのです。私たちは、イエス様をどう見るのでしょうか。私たちはイエス様を、「どこから来た人」と見るのでしょうか。現代の多くの人も、イエスという男は、二千年前にパレスチナに存在していた歴史的な人物だと認めるでしょう。そして愛を説き、あらゆる弱さを持つ人々に寄り添い、十字架で殺された人物と見るでしょう。しかしそれは、あくまでも表面的な見方です。イエス様ご自身は、「わたしは神様から遣わされて来た神の子だ」と言われるのです。そのイエス様の自己証言を信じるかどうか、現代の私たちにも問われていることなのです。

2. イエスはどこへ行くのか？

「エルサレムのある人たち」は、イエス様をキリストだと信じませんでした。しかし「**群衆**」と呼ばれる人たちの中には、イエス様を信じる人が多くいたのです。「群衆」というのは、「エルサレムに住んでいた人たち」ではなく、祭りのために各地から集まって来たユダヤ人たちのことです。彼らは、イエス様の「**しるし**」、つまり奇跡を見てイエス様を信じたのです。ですから「**キリストが来られるとき、この方がなされたよりも多くのしるしを行うだろうか**」と言いました。つまりイエス様は、「キリスト」よりもすごい方なのではないかとさえ思ったのです。

このように多くの「群衆」がイエス様を信じるようになると、「ユダヤ人の宗教指導者たち」は妬みを抱き、これ以上イエス様の影響が「群衆」に及ばないように、イエス様を捕え

ようとします。しかしイエス様は、今度はそのような「ユダヤ人の宗教指導者たち」に対して、こう言われます。「**もう少しの間、わたしはあなたがたとともにいて、それから、わたしを遣わされた方のもとに行きます。あなたがたはわたしを捜しますが、見つけることはありません。わたしがいるところに来ることはできません**」。イエス様は先ほど、「エルサレムのある人たち」には、ご自分が「どこから来たのか」ということを語られました。しかし今度、「ユダヤ人の宗教指導者たち」には、ご自分が「どこへ行くのか」ということを語られるのです。イエス様は、「もう少しの間、わたしはあなたがたとともにいるが、やがてわたしは、わたしを遣わされたもとに行く」と言われます。つまりイエス様は、やがてご自分は「神様のもとに行く」と言われるのです。イエス様は、ご自分の時まで、もう少しの間、この地上におられます。しかしご自分の時、つまり十字架で殺される時が来ると、「神様のもとに行かれる」のです。

「神様のもと」とは、どこでしょうか。それは、「天国」と言ってもよいと思います。イエス様は、天国から神様に遣わされて、この地上に来られました。そしてやがて天国に帰って行かれるのです。ではイエス様は何のために、この地上に来られたのでしょうか。その一つは、神様とはどのような方かを私たちに説き明かすためです（ヨハネ 1：18）。そしてもう一つは、私たち人間の罪を背負って十字架に架かり、神様の刑罰を受けるためです。私たち人間の身代わりに神様の刑罰を受け、十字架で死ぬためです。これこそがイエス様の最大の使命でした。この使命を終えられると、イエス様は天国におられる神様のもとに帰って行かれるのです。しかしイエス様は、十字架で死なれて、その魂が天国に行かれたというのではありません。イエス様は、三日目に十字架の死からよみがえられ、体をもって復活されたのです。そして体をもって神様のもとである天国に帰って行かれたのです。

イエス様は、「ユダヤ人の宗教指導者たち」に、「わたしはやがて、神様のもとである天国に帰る」と言われます。しかし同時に、「あなたがたはわたしを捜しますが、見つけることはありません。わたしがいるところに来ることはできません」と言われるのです。これは非常に厳しい言葉です。イエス様は彼らに、「あなたがたは天国に来ることはできない」と言われているからです。彼らは「ユダヤ人の宗教指導者たち」です。神様を信じ、人々に旧約聖書を教え、律法を真面目に守っている人たちでした。しかしイエス様は彼らに、「あなたがたは天国に来ることはできない」と言われるのです。なぜでしょうか。なぜ彼らは、天国に行くことはできないのでしょうか。

ヨハネの福音書を読み進めて、14章まで来ると、イエス様はこう言われます。「**あなたがたは心を騒がせてはなりません。神を信じ、またわたしを信じなさい。わたしの父の家には住む所がたくさんあります。そうでなかったら、あなたがたのために場所を用意しに行くと、言ったでしょうか。わたしが行って、あなたがたに場所を用意したら、また来て、あなたがたをわたしのもとに迎えます。わたしがいるところに、あなたがたもいるようにするためです**」(ヨハネ 14:1-3)。イエス様は、天国に帰って行かれました。それは、私たちのために「住む所」「場所」を用意して、私たちを天国に迎えてくださるためです。しかしイエス様は、誰のために「住む所」「場所」を用意してくださるのでしょうか。それは、「神様を信じ、イエス様を信じる人」のためです。

イエス様は、「神を信じ、またわたしを信じなさい」と言われます。イエス様は、「神を信じるだけでなく、わたしを信じなさい」と言われます。なぜならイエス様こそ、神の子であり、神様ご自身であるからです。神様を信じるとは、イエス様を信じることなのです。イエス様を信じることで、本当の意味で神様を信じているということになるのです。

「ユダヤ人の宗教指導者たち」は、神様を信じ、人々に旧約聖書を教え、律法を真面目に守っている人たちでした。しかし彼らは、イエス様を信じていませんでした。ですから彼らは、本当の意味で神様を信じているということにはならなかったのです。そのためイエス様は彼らに、「あなたがたは天国に来ることはできない」と言われたのです。またイエス様は、「エルサレムのある人たち」に、「あなたがたは神様を知りません」と言われました。彼らは、ユダヤ人の宗教的中心地に住んでいて、キリストについての知識を持っている人たちでした。しかし彼らもまた、イエス様を信じていませんでした。それゆえに彼らも、本当の意味で神様を知ってはいないということになるのです。

イエス様は、14章でこう言われます。「**わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれも父のみもとに行くことはできません。あなたがたはわたしを知っているなら、わたしの父をも知るようになります。今から父を知るのです。いや、すでにあなたがたは父を見たのです**」(ヨハネ 14:6-7)。私たちは、イエス様を通してでなければ、誰も神様を信じることはできません。神様を信じるとは、イエス様を信じることなのです。そしてイエス様を信じる時、私たちは真の神様を見出し、神様のおられる天国に行くことができるのです。神様を見出す道、天国へ行く道は、それしかないのです。どんなに聖書の知識を蓄えても、どんなに敬虔な生き方をしても、どんなに慈善活動をしても、決して神様を見出すこと、天国を見出すことはできないのです。その道は限りなく狭いのです。イエス様という道しか、そこには辿り着けないのです。神様を見出すには、天国に行くには、神様が定めた道筋があるのです。私たちは、それに従わなければなりません。私たちは、これだけのことをしたから天国に入れてください、これだけの生き方をしたから天国に入れてくださいとは言えないのです。神様が定めた、神様を見出す道、天国に行く道は、イエス様を信じるということ以外にはないのです。

これは限りなく狭い道ですが、限りなく広い道でもあります。なぜなら、イエス様を信じるだけでよいからです。努力が必要なことでもありません。時間のかかることでもありません。その気になれば、今すぐにこの場でできることだからです。幼い子どもからお年寄りまで、誰にでもできることだからです。

おわりに

イエス様は、「もう少しの間、わたしはあなたがたとともにいる」と言われました。イエス様は、この地上にいる間に、「ユダヤ人の宗教指導者たち」にイエス様を信じてほしいと願ったのではないのでしょうか。「わたしがあなたがたとともにいる間に、信じてほしい」と願ったのではないのでしょうか。「もう少しの間」という言葉は、「ミクロス」という言葉で、

「小さい」「短い」という意味の言葉です。私たちには、時間が限りなくあるわけではありません。私たちに与えられた時間は限られています。私たちはいつこの命が取られるかわかりません。私たちは、限られた時間の中で、イエス様を信じるようにと、イエス様から求められているのです。旧約聖書に出てくる預言者イザヤは、こう言いました。「**主を求めよ、お会いできる間に。呼び求めよ、近くにおられるうちに**」(イザヤ 55:6)。新約聖書に出てくる使徒パウロも、こう言いました。「**見よ。今は恵みの時、今は救いの日です**」(IIコリント 6:2)。私たちには今、神様への道、天国への道が開かれています。この時にぜひ、イエス様を信じてほしいと心から願います。

イエス様を信じるとは、どういうことなのでしょう。それは、イエス様がどこから来て、どこへ行く方なのかを表面的にではなく、正しく判断して、それを信じるということです。イエス様は、神様のもとから遣わされて、私たちのために神様を解き明かし、私たちの罪の身代わりに十字架で死なれ、三日目に体をもってよみがえり、今は神様がおられる天国に帰って行かれました。そして天国で私たちを待っておられます。

私たちは、イエス様を信じ、神様を信じる時に、私たち自身も、どこから来て、どこへ行くのかを知るようになります。現代の多くの方は、自分自身がどこから来て、どこへ行くのかを知りません。何のために生まれて来て、死んだらどうなるのかを知りません。そのために、虚無と恐怖に囚われています。イエス様を信じ、神様に会う時、私たちは、自分がどこから来たのかを知るのです。私たちは、神様に造られ、神様に命を与えられ、私たちの人生に神様の計画があることを知るのです。決して私たちは、偶然に意味もなく生まれて来たわけではないことを知るのです。そして私たちは、イエス様を信じ、神様に会う時、私たちは、自分がどこへ行くのかを知るのです。私たちは、イエス様を信じる時、私たちが死んだ後、神様とイエス様がおられる天国に行くのです。そしてあらゆる労苦から解き放たれて、報いを与えられるのです(黙示録 14:13)。これがイエス様を信じる幸いです。

どうか、ここにいる皆さんがイエス様にお会いできる間に、近くにおられるうちに、ぜひイエス様を信じていただきたいと心から願います。そして、自分がどこから来て、どこへ行くのかをしっかりと確信して生きていただきたいと願います。

天におられる私たちの父なる神様。

私たちは、生まれながらに神様を見失い、自分がどこから来て、どこへ行くのかを知りません。その中で、虚無と恐怖を抱えながらも、胡麻化しながら生きています。イエス様は、私たちにその答えを与えるために、この地上に来られ、神様を説き明かし、私たちのために十字架で死なれました。そして今は天国におられ、私たちを待っておられます。

私たちがどうか、イエス様を信じて、自分がどこから来て、どこへ行くのかをはっきりと確信することができますように。そして感謝と喜びと平安のうちに人生を歩めますように。

この祈りを私たちの救い主イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。